

(ふるさと雇用再生特別交付金委託等事業)

平成23年度 障害者グループホーム等 サービス向上推進事業報告書

神奈川県

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

はじめに

障害者グループホーム・ケアホームには、障害のある人が地域の中で自分らしい自立生活を送ることを支援するサービスとして大きな期待が寄せられています。一方で、障害者グループホーム・ケアホームは、小規模であるために施設運営やサービス提供における課題も多いのが現状です。

利用者の権利擁護の視点に立った質の高いサービスを提供することができるよう、事業所によるサービスの自己点検・自己評価のシステムを構築するとともに、事業者間のネットワークの形成を図ることが求められています。

そこで、本会は、神奈川県からの委託を受け、平成 21 年度から「障害者グループホーム等サービス向上推進事業」に取り組んできました。

平成 21 年度に「障害者グループホーム・ケアホーム自己評価の手引き」を作成し、「自己評価のすすめ方研修会」を開始して以来、平成 22 年度には「自己評価のすすめ方研修会」の開催地域を県内 6 か所に拡大するとともに、各障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンターと協働し、新たに圏域ごとに事業所ニーズに沿ったプログラムを設定して開催しました。また、福祉サービス第三者評価の受審も視野に入れた自己評価のすすめ方や効果的な取り組み方などの情報を集約した「障害者グループホーム・ケアホーム 自己評価のススメ」を作成し、自己評価の普及に取り組んでまいりました。

こうした事業の企画にあたっては、「自己評価のすすめ方研修会」の参加者アンケートの結果を踏まえ、各障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンターから様々な面でご助言・ご協力いただきました。研修会にご参加いただいた皆様、各障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンターに改めて深く感謝申し上げます。

自己評価のシステムを構築し、普及するためには、研修会の継続した開催が不可欠です。そこで、本年度においても県内 6 地域で「障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会」を開催するとともに、障害分野から保育分野に拡大して研修会を開催しました。

「障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会」のプログラムの特徴は、サービスの質の向上に向けて、自己評価への取り組み支援や職員間の連携促進及び情報共有の取り組みといった、各ホームのサービス提供の基盤の強化を支援することを主なねらいとしている点にあります。研修会参加者アンケートでは、多くの参加者から「自己評価をやってみたい」との感想や「研修内容は今後の業務に役立つ」との意見が寄せられました。

研修会参加事業所を対象に行った「自己評価取り組み状況アンケート」でも、「すでに自己評価を実施した（または実施を計画中である）」との回答が回答者全体の約 5 割の事業所から寄せられ、研修を契機に障害者グループホーム・ケアホームで自己評価への取り組みが進みつつあることが確認できました。

しかし、一方でアンケートでは障害者グループホーム、ケアホームが抱える様々な課題や悩みについての意見も多数、寄せられました。

こうした取り組みに加えて、本年度は児童分野においても、平成 20 年 3 月に告示された保育所保育指針により、保育士等及び保育所の自己評価の実施並びにその公表が義務づけされたことを踏まえ、各保育園における自己評価の取り組みを支援するため、「保育園の自己評価のすすめ方研修会」を開催しました。

本報告書は、本年度の「障害者グループホーム等サービス向上推進事業」の実施状況について、

第一部では障害分野の実施結果から見えてきた今後の障害者グループホーム・ケアホームに必要な支援等について、第二部では児童分野の実施結果から見えてきた今後の保育所に必要な支援等についてまとめました。

神奈川県においては、障害者グループホーム・ケアホームを対象とした福祉サービス第三者評価の仕組みが平成 22 年度に構築され、障害者グループホーム・ケアホームの福祉サービス第三者評価制度もスタートしています。事業所内での自己評価の取り組みがより普及することで、福祉サービスの質の向上につながりますようこの報告書の内容を、県内の支援機関・団体等に共有いただき、今後の障害者グループホーム・ケアホーム支援と保育所支援の充実への一助となりましたら幸いです。

平成 24 年 3 月

神 奈 川 県

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

平成 23 年度 障害者グループホーム等サービス向上推進事業報告書

目 次

第一部 障害分野

- I 平成 23 年度 障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会 実施結果・・・ P 1
- II 平成 23 年度 障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会 アンケート結果・自己評価取り組み状況アンケート結果及び今後の必要な取り組み…………… P10
 - II-1 平成 23 年度 障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会アンケート結果…………… P10
 - II-2 自己評価取り組み状況についてのアンケート結果…………… P27
 - II-3 「サービス評価研修会アンケート」及び「自己評価の取り組み状況についてのアンケート」結果の概要及び今後の必要な取り組み…………… P34
- III 各障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンターとの会議実施結果ーネットワーク形成支援にむけてー…………… P37

第一部 障害分野

Ⅰ 平成 23 年度 障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会 実施結果

1. 実施結果の概要

障害者グループホーム・ケアホームは、障害者の地域生活を支える非常に重要な資源であり、利用者の権利擁護の視点に立った質の高いサービス提供が求められている。

平成 22 年度に本会が実施した「障害者グループホーム・ケアホーム 自己評価のすすめ方研修会」や「自己評価取り組み状況アンケート」では、障害者グループホーム・ケアホーム関係者から職場環境や利用者支援などについて様々な意見や課題が寄せられた。

そこで、本年度は、昨年度に続いて、自己評価の普及のための研修会とともに、各障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンターとの協働によるプログラムを設定し、身近な地域での障害者グループホーム・ケアホーム相互の交流と課題解決に向けた情報交換を実施しました。

2. 研修会開催結果

(1) 横須賀・三浦圏域

開催日時	平成 23 年 8 月 30 日（火） 10:30～15:00	
会場	横須賀市立総合福祉会館	
共催	神奈川県横須賀・三浦障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター	
対象者	対象地域:横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦町、葉山町 対象者:①障害者グループホーム・ケアホームの管理者、サービス管理責任者、世話人等 ②障害者グループホーム・ケアホーム等を運営する法人の職員等	
プログラム	<p>第 1 部【講義】10:30～12:00 「障害者グループホーム・ケアホームにおけるサービスの質の向上に向けて」 ～はじめてみよう自己評価～ 講師：海原 泰江 氏（特定非営利活動法人 あまね 理事長） 田口久美子 氏（町田福祉保育専門学校 非常勤講師） コーディネーター：稲木 俊夫 氏（社会福祉法人 湘南の風 常務理事）</p> <p>第 2 部【グループ討議】13:00～15:00 グループでの情報交換・意見交換 ～みんなで話し合おう～ 「ワールド・カフェ」方式によるグループディスカッション テーマ「利用者支援の質を高めるにはどうしたら良いのか」 ファシリテーター：稲木 俊夫 氏（社会福祉法人 湘南の風 常務理事） 大井みのる 氏（社会福祉法人 湘南の風 支援センター風） 小野 克彦 氏（社会福祉法人 心の会 衣笠障害者相談 サポートセンター相談室「あすなろ」室長） 篠田 真弓 氏（社会福祉法人 ラファエル会 ケアホーム 「新星」・ショートステイ パイル 室長）</p>	
参加者	13 名	法人(社会福祉法人:9名・NPO法人:4名) 対象(知的:9名・精神:2名・身体:1名・知的/発達:1名) 役職(管理者:3名・サビ管:2名・世話人:6名・生活支援員:2名)

(2) 湘南西部圏域

開催日時	平成 23 年 9 月 15 日 (木) 10:30～15:00	
会 場	神奈川県平塚合同庁舎	
共 催	神奈川県湘南西部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター	
対 象 者	対象地域：平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町 対 象 者：①障害者グループホーム・ケアホームの管理者・サービス管理責任者・世話人等職員 ②障害者グループホーム・ケアホームを運営する法人の職員等	
プログラム	<p>第 1 部【講義】10:30～12:00 「障害者グループホーム・ケアホームにおけるサービスの質の向上に向けて」 ～はじめてみよう自己評価～ 講 師：藤村 和静 氏 (神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 非常勤講師) 事例発表者：村尾 朗 氏 (社会福祉法人 翔の会 入道雲 はちみつ 施設長)</p> <p>第 2 部【演習】13:00～15:00 『風通しのよい場をつくる』～コミュニケーション・スキルを学ぼう！ 講 師：川合 雅子 氏 (株式会社 WECOP 代表取締役)</p>	
参加者	10 名	<p>法 人(社会福祉法人:4 名・NPO 法人:5 名・医療法人:1 名) 対 象(知的:5 名・精神:5 名) 役 職(管理者:3 名・サビ管:2 名・世話人:3 名・生活支援員:1 名・ 精神保健福祉士:1 名)</p>

(3) 湘南東部圏域

開催日時	平成 23 年 9 月 29 日 (木) 10:30～15:00	
会 場	神奈川県藤沢合同庁舎	
共 催	神奈川県湘南東部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター	
対 象 者	対象地域：藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町 対 象 者：①障害者グループホーム・ケアホームの管理者・サービス管理責任者・世話人等職員 ②障害者グループホーム・ケアホームを運営する法人の職員等	
プログラム	<p>第 1 部【講義】10:30～12:00</p> <p>「障害者グループホーム・ケアホームにおけるサービスの質の向上に向けて」 ～はじめてみよう自己評価～</p> <p>講 師：藤村 和静 氏 (神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 非常勤講師)</p> <p>事例発表者：戸高 洋充 氏 (社会福祉法人 藤沢ひまわり グリーンウェーブ湘南 グリーンウェーブ湘南 A グリーンウェーブ湘南 B 総合施設長)</p> <p>第 2 部【演習】13:00～15:00</p> <p>『風通しのよい場をつくる』～アサーション (Assertion) の技法を学ぼう！～</p> <p>講 師：川合 雅子 氏 (株式会社 WECOP 代表取締役)</p>	
参 加 者	23 名	<p>法 人(社会福祉法人:21 名・NPO 法人:2 名)</p> <p>対 象(知的:15 名・精神:7 名・知的/身体:1 名)</p> <p>役 職(管理者:1 名・世話人:12 名・生活支援員:9 名・不明:1 名)</p>

(4) 県西圏域

開催日時	平成 23 年 10 月 7 日 (金) 10:30～15:00	
会 場	神奈川県小田原合同庁舎	
共 催	神奈川県県西障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター	
対 象 者	対象地域：小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町 対 象 者：①障害者グループホーム・ケアホームの管理者・サービス管理責任者・世話人等職員 ②障害者グループホーム・ケアホームを運営する法人の職員等	
プログラム	<p>第 1 部【講義】 10:30～12:00 「障害者グループホーム・ケアホームにおけるサービスの質の向上に向けて」 ～はじめてみよう自己評価～ 講 師：村尾 朗 氏 (社会福祉法人 翔の会 入道雲 はちみつ 施設長) 事例発表者：露木 とし 氏 (社会福祉法人 明星会 竹の子ホーム サービス管理責任者)</p> <p>第 2 部【演習】 13:00～15:00 『風通しのよい場をつくる』～アサーション (Assertion) の技法を学ぼう！～ 講 師：川合 雅子 氏 (株式会社 WECOP 代表取締役)</p>	
参加者	15 名	<p>法 人(社会福祉法人:13 名・NPO 法人:2 名) 対 象(知的:15 名) 役 職(管理者:2 名・サビ管:2 名・世話人:7 名・生活支援員:4 名)</p>

(5) 県央圏域

開催日時	平成 23 年 12 月 13 日 (火) 10:30～15:00	
会場	大和市保健福祉センター	
共催	神奈川県県央障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター	
対象者	対象地域：厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村 対象者：①障害者グループホーム・ケアホームの管理者・サービス管理責任者・世話人等職員 ②障害者グループホーム・ケアホームを運営する法人の職員等	
プログラム	<p>第 1 部【講義】 10:30～12:00 「障害者グループホーム・ケアホームにおけるサービスの質の向上に向けて」 ～はじめてみよう自己評価～ 講師：田口久美子 氏（町田福祉保育専門学校 非常勤講師） 事例発表者：北村 陽子 氏（社会福祉法人 かながわ共同会 秦野精華園 地域生活支援課長）</p> <p>第 2 部【演習】 13:00～15:00 『風通しのよい場をつくる』～アサーション（Assertion）の技法を学ぼう！～ 講師：川合 雅子 氏（株式会社 WECOP 代表取締役）</p>	
参加者	12 名	法人(社会福祉法人:11 名・NPO 法人:1 名) 対象(知的:11 名・精神:1 名) 役職(管理者:3 名・サビ管:2 名・世話人:5 名・生活支援員:2 名)

(6) 政令指定都市

開催日時	平成 23 年 11 月 15 日 (火) 10:30～15:00	
会場	帆船日本丸記念財団・JTB 法人東京共同事業体 訓練センター	
対象者	対象地域：横浜市、川崎市、相模原市 対象者：①障害者グループホーム・ケアホームの管理者・サービス管理責任者・世話人等職員 ②障害者グループホーム・ケアホームを運営する法人の職員等	
プログラム	<p>第 1 部【講義】10:30～12:00 「障害者グループホーム・ケアホームにおけるサービスの質の向上に向けて」 ～はじめてみよう自己評価～ 講師：村尾 朗 氏 (社会福祉法人 翔の会 入道雲 はちみつ 施設長) 事例発表者：長嶋 幸子 氏 (特定非営利活動法人 こだちの会 グループホーム こだち グリーンコーポ サービス管理責任者)</p> <p>第 2 部【演習】13:00～15:00 『風通しのよい場をつくる』～コミュニケーション・スキルを学ぼう！ 講師：川合 雅子 氏 (株式会社 WECOP 代表取締役)</p>	
参加者	45 名	<p>法人(社会福祉法人:24名・NPO 法人:15名・医療法人:1名・医療法人社団:3名・ 社団法人:2名)</p> <p>対象(知的:20名・精神:15名・身体:2名・知的/精神:2名・知的/身体:1名・ 知的/精神/身体:3名・不明:2名)</p> <p>役職(管理者:11名・サビ管:9名・主任:1名・世話人:13名・生活支援員:4名・ 不明:7名)</p>

(参 考)

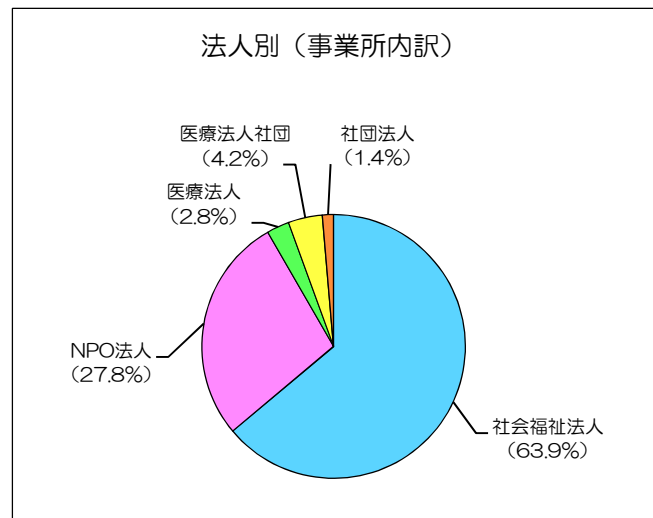
全 6 回参加状況(合計)

○参加事業所総数 (72 事業所)

〈法人別内訳〉

- ・ 社会福祉法人 46 事業所 (約 63.9%)
- ・ NPO 法人 20 事業所 (約 27.8%)
- ・ 医療法人 2 事業所 (約 2.8%)
- ・ 医療法人社団 3 事業所 (約 4.2%)
- ・ 社団法人 1 事業所 (約 1.4%)

※小数第 2 位を四捨五入した。



◆H23 参加事業所 (圏域別)

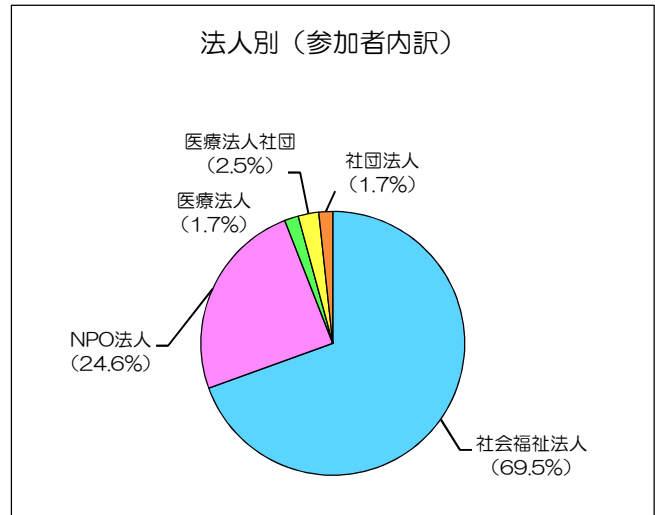
	圏 域	社会福祉法人	NPO 法人	医療法人	医療法人社団	社団法人
1	横須賀・三浦 (8 事業所)	4	4			
2	湘南西部 (9 事業所)	4	4	1		
3	湘南東部 (10 事業所)	8	2			
4	県 西 (5 事業所)	4	1			
5	県 央 (8 事業所)	7	1			
6	政令指定都市 (32 事業所)	19	8	1	3	1
	合 計	46	20	2	3	1

○参加者総数（118名）

〈法人別内訳〉

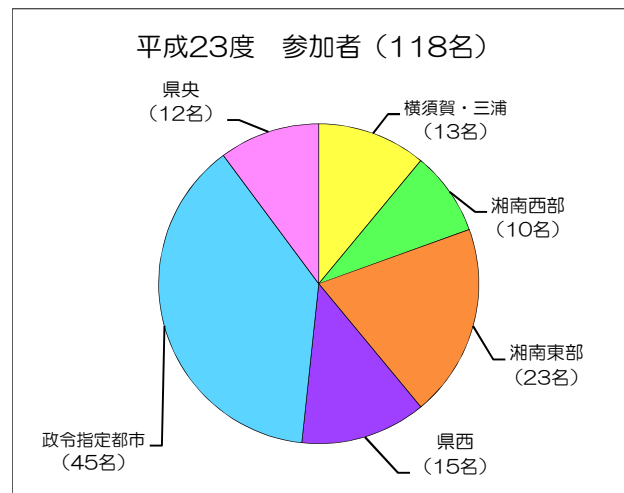
- ・ 社会福祉法人 82名（約 69.5%）
- ・ NPO法人 29名（約 24.6%）
- ・ 医療法人 2名（約 1.7%）
- ・ 医療法人社団 3名（約 2.5%）
- ・ 社団法人 2名（約 1.7%）

※小数第2位を四捨五入した。



◆H23 参加者（圏域別）118名

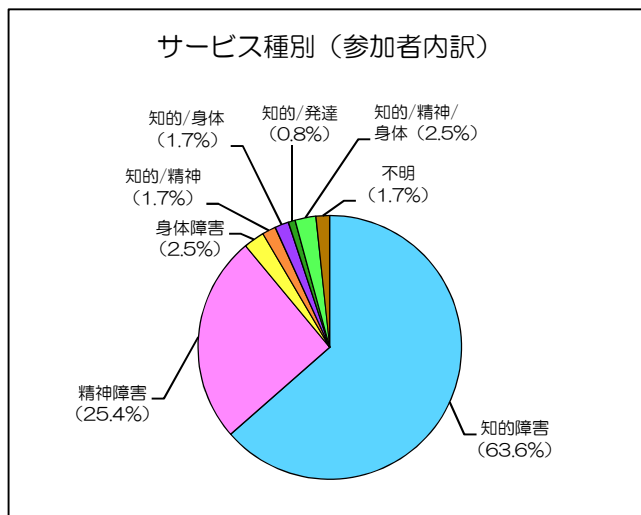
	圏 域	社会福祉法人	NPO法人	医療法人	医療法人社団	社団法人
1	横須賀・三浦（13名）	9	4			
2	湘南西部（10名）	4	5	1		
3	湘南東部（23名）	21	2			
4	県 西（15名）	13	2			
5	県 央（12名）	11	1			
6	政令指定都市（45名）	24	15	1	3	2
	合 計	82	29	2	3	2



〈グループホーム等のサービス種別内訳〉

- ・知的障害 75名 (約 63.6%)
- ・精神障害 30名 (約 25.4%)
- ・身体障害 3名 (約 2.5%)
- ・知的/精神 2名 (約 1.7%)
- ・知的/身体 2名 (約 1.7%)
- ・知的/発達 1名 (約 0.8%)
- ・知的/精神/身体 3名 (約 2.5%)
- ・不明 2名 (約 1.7%)

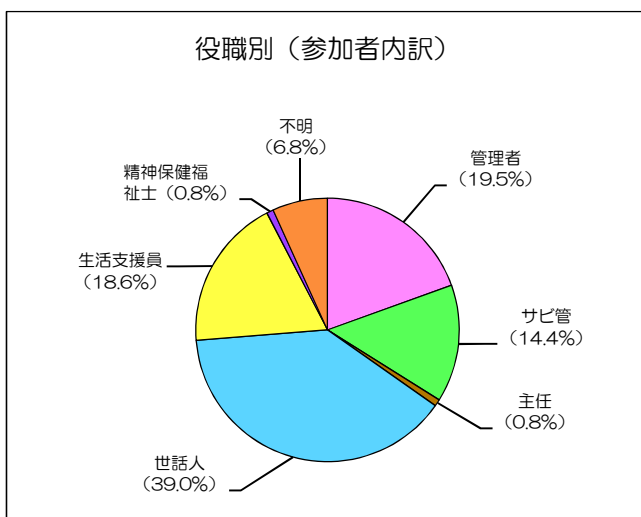
※小数第2位を四捨五入した。



〈役職別内訳〉

- ・管理者 23名 (約 19.5%)
- ・サビ管 17名 (約 14.4%)
- ・主任 1名 (約 0.8%)
- ・世話人 46名 (約 39.0%)
- ・生活支援員 22名 (約 18.6%)
- ・精神保健福祉士 1名 (約 0.8%)
- ・不明 8名 (約 6.8%)

※小数第2位を四捨五入した。



II 平成23年度 障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会アンケート結果・自己評価取り組み状況アンケート結果及び今後の必要な取り組み

II-1 平成23年度 障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会アンケート結果

1. アンケートの目的

障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会の参加者を対象に研修に関する理解度及び満足度を把握するとともに、障害者グループホーム・ケアホーム従事者及び関係者が必要としている支援等を把握するために研修会終了後アンケートを行なった。

2. アンケート実施状況

①アンケート回収状況（83通）

	横須賀・三浦	湘南西部	湘南東部	県西	県央	政令指定都市	合計
実施日	8月30日 (火)	9月15日 (木)	9月29日 (木)	10月7日 (金)	12月13日 (火)	11月15日 (火)	
参加者数 (名)	13	10	23	15	12	45	118
回収通数 (通)	11 (84.6%)	3 (30.0%)	16 (69.6%)	14 (93.3%)	10 (83.3%)	29 (64.4%)	83 (70.3%)

(小数第2位を四捨五入)

②アンケート回答者の属性

(人)

	管理者	サービス管理 責任者	世話人/ 生活支援員	その他	不明	合計
横須賀・三浦	1	2	7		1	11
湘南西部			1		2	3
湘南東部			12		4	16
県西	1	1	9	1	2	14
県央	2	2	6			10
政令指定都市	5	6	15		3	29
合計	9 (10.8%)	11 (13.3%)	50 (60.2%)	1 (1.2%)	12 (14.5%)	83 (100%)

(小数第2位を四捨五入)

※回答者が複数職種を兼務している場合には、管理者が他の職種を兼務の場合は管理者の立場で、サービス管理責任者が世話人等の職種を兼務の場合はサービス管理責任者の立場で回答するよう依頼した。

3. アンケート結果

◆第1部プログラムについて

〈第1部プログラムの概要〉

「障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会」第1部では、サービスの質の向上にむけ、今日の福祉サービス提供に求められている視点と自己評価の必要性について及び、自己評価の目的と意義、具体的な取り組み方等についての講義とともに自己評価の実践事例の発表を行った。

◆自己評価の理解度について(単一回答)

問1. 第1部【講義】「障害者グループホーム・ケアホームにおけるサービスの質の向上に向けて～はじめてみよう自己評価～」を聴いてどのような感想をもちましたか。
 あてはまるもの1つに○をつけてください。

	1.自己評価についてよく理解できた	2.自己評価についてまあ理解できた	3.自己評価についてあまり理解できなかった	4.自己評価について理解できなかった	5.その他	不明	合計
横須賀・三浦	5	6					11
湘南西部		3					3
湘南東部	8	7	1				16
県西	9	3			1	1	14
県央	1	8	1				10
政令指定都市	16	10	2			1	29
回答数	39 (47.0%)	37 (44.6%)	4 (4.8%)	0 (0%)	1 (1.2%)	2 (2.4%)	83 (100%)

(小数第2位を四捨五入)

〔職種別内訳〕

	1.自己評価についてよく理解できた	2.自己評価についてまあ理解できた	3.自己評価についてあまり理解できなかった	4.自己評価について理解できなかった	5.その他	不明	合計
管理者	3 (33.3%)	5 (55.6%)			1 (11.1%)		9 (100%)
サービス管理責任者	4 (36.4%)	4 (36.4%)	1 (9.1%)			2 (18.2%)	11 (100%)
世話人／生活支援員	26 (52.0%)	21 (42.0%)	3 (6.0%)				50 (100%)
その他		1 (100%)					1 (100%)
不明	6 (50.0%)	6 (50.0%)					12 (100%)
合計	39 (47.0%)	37 (44.6%)	4 (4.8%)	0 (0%)	1 (1.2%)	2 (2.4%)	83 (100%)

(小数第2位を四捨五入)

〔5.その他〕

- ・自己評価することの大切さがわかった。(県西／管理者)
- ・自己評価についての詳しい話をもっとして頂きたかった。(県央／サビ管)3 と複数回答

◆自己評価の取り組みへの意向(単一回答)

問 2. 管理者・サービス管理責任者の方にお伺いいたします。あなたの職場で自己評価をやってみようと思いましたが、あてはまるもの 1 つに○をつけて、その理由を教えてください。

	1.自己評価をやってみようと思った	2.自己評価をやってみようという気持ちにはなれない	3.その他	合 計
横須賀・三浦	3	1		4
湘南西部	2	1		3
湘南東部	1		2	3
県 西	1			1
県 央	5			5
政令指定都市	17			17
回 答 数	29 (87.9%)	2 (6.1%)	2 (6.1%)	33 (100%)

(小数第 2 位を四捨五入)

〔職種別内訳〕

	1.自己評価をやってみようと思った	2.自己評価をやってみようという気持ちにはなれない	3.その他	合 計
管 理 者	8 (88.9%)	1 (11.1%)		9 (100%)
サービスマ ニ 責 任 者	9 (100%)			9 (100%)
世 話 人 / 生 活 支 援 員	8 (80.0%)		2 (20.0%)	10 (100%)
不 明	4 (80.0%)	1 (20.0%)		5 (100%)
合 計	29 (87.9%)	2 (6.1%)	2 (6.1%)	33 (100%)

(小数第 2 位を四捨五入)

◆自己評価の取り組みへの意見(自由記述)

〔自己評価をやってみようと思った理由〕

●既に自己評価に取り組んでいる

- ・現在、年1回実施していますので継続していきます。(サ管)
- ・既実践しているが、継続していく。“尺度＝個別支援計画”読み込んでいきたい。(世／生)

●職員間の連携、意識共有、相互理解ができ、業務改善につながる

- ・自己評価をする体制作りを先に整えたい。職員体制が変更になるので。(管)
- ・一人職場であるというグループホームの環境特性に合わせ、良くねられた評価方法だと思いました。(管)
- ・自分及び自分の仕事を客観的に見てもらうため。(管)
- ・個人個人の思いが知りたい。今後役に立てそう。(管)
- ・職場でのコミュニケーションに役立つと思う。(サ管)
- ・やることに意味があり、評価項目をベースラインに各職員の意見や感じ方の共有にも繋がると考えた。(サ管)
- ・ななあになりつつある職場を見直す為。(世／生)
- ・やったことがないし、非常勤の方に有効と感じたから。(世／生)
- ・業務改善、利用者支援向上の為。(不明)

●ふりかえりの機会になるから

- ・スタッフ内の支援共有、利用者への理解などの振り返りの機会として。(管)
- ・日々の業務を振り返る時間が必要だと感じたので。(管)
- ・まず、自分を見つめ直すために。(管)
- ・自分の支援の振り返りのために、自己評価は是非やって、次の支援に活かしたいと考えている。(サ管)
- ・自分の支援について振り返る、職員全員の支援について考える機会を持つため。(サ管)
- ・個人の支援、事業所の支援が適切に行われているかを振り返るために自己評価をやってみたいと思った。(サ管)
- ・常に振り返る姿勢や、その共有が大切に感じました。(世／生)
- ・たんたん支援するだけでなく、振り返りや確認をすることは自分の自信に繋がっていく。自信に繋げるためにも自己評価は大切と感じました。(世／生)
- ・改めて仕事確認ができて良いと思いました。(世／生)
- ・振り返りが大事だと思うので。(不明)
- ・自己評価について、自己のふりかえりと権利擁護について認識を高めていきたい。(不明)

●その他

- ・25年度に GHCH 第三者評価の受審を考えており、その前段階として来年度、自己評価をやってみようと思っている。(管)
- ・思いましたが、開設して1年が経過したばかりなので、もう少し時期を見て感じました。(サ管)
- ・必要なものであると思います。(サ管)

〔自己評価をやってみようという気持ちになれない理由〕

●職場環境について

- ・少人数で6名の在籍でコミュニケーションは出来ていると思うので。(不明)

〔その他の理由〕

●自己評価に関する意見

- ・するか、しないかのレベルに自己が追いついていない。(世/生)

【注: 役職の略称】(管) = 管理職 (サ管) = サービス管理責任者 (世/生) = 世話人/生活支援員
(他) = その他 (不明) = 記入なし

◆第2部プログラムについて

〈第2部プログラムの概要〉

「障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会」第2部では、各障害保健福祉圏域ナビゲーションセンターとの協働企画で、各圏域のニーズにそって次のプログラムを実施した。

1. 「グループ討議」～みんなで話し合おう～

テーマ「利用者支援の質を高めるにはどうしたら良いのか」

(実施：横須賀・三浦)

テーマについて「ワールド・カフェ」方式によるグループディスカッションを行った。

2. 「風通しのよい場をつくる」～コミュニケーション・スキルを学ぼう！～

(実施：湘南西部、政令指定都市)

職場内のコミュニケーションがうまくいく方法について、昨年の内容を発展させたスキルを学ぶ内容を行った。

3. 「風通しのよい場をつくる」～アサーション (Assertion) の技法を学ぼう！～

(実施：湘南東部、県西、県央)

職場内のコミュニケーションがうまくいく方法として、自分も相手も大切にして、自分の気持ちや考え、意見を正直・率直に伝え、その場にふさわしい方法で表現する「相互尊重のコミュニケーション」を学ぶ内容を行った。

◆第2部プログラムの満足度(単一回答)

問3. 第2部の内容は、今後あなたが業務をすすめる上で役立つものと感じられましたか。
 あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

	1.非常に感じられた	2.まあ感じられた	3.あまり感じられなかった	4.感じられなかった	不明	合計
横須賀・三浦	9	2				11
湘南西部	1	2				3
湘南東部	13	1				14
県西	12	1			1	14
県央	5	3	1			9
政令指定都市	16	9	3			28
回答数	56 (70.9%)	18 (22.8%)	4 (5.1%)	0 (0%)	1 (1.3%)	79 (100%)

(小数第2位を四捨五入)

〔職種別内訳〕

	1.非常に感じられた	2.まあ感じられた	3.あまり感じられなかった	4.感じられなかった	不明	合計
管理者	4 (44.4%)	3 (33.3%)	2 (22.2%)			9 (100%)
サービス管理責任者	9 (81.8%)	2 (18.2%)				11 (100%)
世話人／生活支援員	36 (75.0%)	10 (20.8%)	1 (2.1%)		1 (2.1%)	48 (100%)
その他	1 (100%)					1 (100%)
不明	6 (60.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)			10 (100%)
合計	56 (70.9%)	18 (22.8%)	4 (5.1%)	0 (0%)	1 (1.3%)	79 (100%)

(小数第2位を四捨五入)

◆第2部プログラムへの参加者意見(自由記述)

〔参加者の意見・感想〕 (横須賀・三浦)

●意見・感想

〈管理職〉

- ・個別支援計画の考え方、関係者との連携が大事等。

〈サービス管理責任者〉

- ・連携時の情報の共有化の大切さと当事者との支援の間で伝える工夫が必要だと痛感した。

〈世話人／生活支援員〉

- ・自分が気づけなかった考え方などに気づくことができました(利用者のことを良く知る、見直すなど)。
- ・色々な意見が聞けた。
- ・たくさんの意見を出し合うこと。
- ・今までは無我夢中で仕事をしていたが、自分では気づけなかった部分に気づけた。
- ・グループホームはいろいろな形があり、それぞれの障害によつての苦勞、悩みはあるものの皆、利用者にとってより良い支援はどうなのかと悩んでいることが解った。

〈職名未記入〉

- ・1人職場ではないことを確認できたこと。

〔参加者の意見・感想〕（湘南西部）

●意見・感想

〈世話人／生活支援員〉

- ・利用者さんと話す時に役立ちそうです。

〈職名未記入〉

- ・職員間、利用者支援でのコミュニケーションをとる時。
- ・職場は知的障害なので、反対に本人が要領よく話すことを学ばせたい。

〔参加者の意見・感想〕（湘南東部）

●意見・感想

〈世話人／生活支援員〉

- ・新人職員のため交流ができました。話し合いが勉強になりました。
- ・相手を褒める習慣を作る。
- ・自分の価値観を尊重する。相手の価値観を尊重する。
- ・積極的でありながらも相手の立場を尊重する考え方を今までも貫いて参りましたが、この生き方が間違っていなかったと確認がとれた事。
- ・自分の行動の傾向がわかった。
- ・改めて考えた事のなかった事を深く考えました。
- ・話しをしてみる事を心がける。
- ・信念は必要だが相手の意見を取り入れるのも大切。

〈職名未記入〉

- ・型にはめない、ニュートラルの状態にいる事。代替案の用意。
- ・職員間の関係が利用者支援に良好になると思います。
- ・相手をよく観る。褒める事。

〔参加者の意見・感想〕（県西）

●意見・感想

〈管理職〉

- ・利用者の気持ちや考えを聞き、受け止めながら自分の考えや意見を云うトレーニングになる。

〈サービス管理責任者〉

- ・自分と相手を大切にすることが問題解決になるということ。
- ・相手を理解し、尊重しながらも自分の気持ちを大切に。その伝え方を上手に表現できる方法が知れました。
- ・問題解決のためのコミュニケーションの大切さ。

- ・アサーション今後役立てたいです。川合氏のプログラム本当に素晴らしいです。ありがとうございました。
- ・思いや考えを遠慮せずに相手に伝える。
- ・立場を考えると…(まだ今の職に就いて半年)なかなか断れないが、そういった意味でこの研修が広まれば良いと思いました。
- ・コミュニケーションをどのように取るか。

〈その他〉

- ・自分も相手も大切に考える関係づくりの視点をもつこと。

〈職名未記入〉

- ・自分自身を大切に相手も大切に接したい。
- ・コミュニケーションの大切さを感じました。話し方の大切さ、表現力の大切さを感じました。

〔参加者の意見・感想〕（県央）

●意見・感想

〈管理職〉

- ・自分自身を見つめる上で役に立った。
- ・利用者支援を考えていく上でスタッフで共有していきたい。

〈サービス管理責任者〉

- ・まず、自己を知ることが大事であること。そして、相手に対して接すること。

〈世話人／生活支援員〉

- ・今まで、色々な研修、講習を受けて来ましたが、初めての研修の体験でした。
- ・コミュニケーションを振り返る良い機会でした。明日より実践してみたいと思います。
- ・自分の価値観で相手を見ない様にする所が大変勉強になりました。
- ・自己理解を深めること。

〔参加者の意見・感想〕（政令指定都市）

●意見・感想

〈管理職〉

- ・スタッフ間また利用者に対しての正しい理解に繋がる。
- ・表現方法を考えるだけで、印象までかわる。
- ・午前中の内容ともう少しリンクしていると良かったです。
- ・相手の言語に合わせること。

〈サービス管理責任者〉

- ・言葉の使い方の方法が良くわかりました。
- ・相手の言葉をじっくり聞ければと思いました。
- ・具体的に体験して自分の中で考えることができ、良かったです。ワークして実際に経験すること、体験することがいいです。
- ・自分の言葉が正しいと思い、何故相手が理解できないのだろうと思っていたことが多くありました。相手のとらえ方が違うということを知り相手にあわせたコミュニケーションが必要だと思いました。
- ・聞く力、表現する力など磨いていけば新たな力となることを感じられた。

〈世話人／生活支援員〉

- ・言葉の選び方、相手の考え方を理解する為に自分がどのようにすれば良いのか。
- ・利用者もそうですが、スタッフ間とのコミュニケーションも大切な事だと感じる事ができました。
- ・職員間ではもちろん、利用者の方との関わりの中でも利用できたらと感じました。
- ・言語でのコミュニケーションにばかり視点をおいていましたが、相手の感覚を理解しようとして、合わせてコミュニケーションを取ったりすることの必要さと難しさを学んだ。
- ・相手との話し方、距離の取り方。
- ・話し方、聞き手としての聞き方。
- ・「伝える」ということのためには、様々な感覚を明確に使っていくこと、引き出してゆくためには様々な要素を想定してこちらのイメージで形づくるのではなく、聞き出して組み立ててゆくことなのだを知った。
- ・相手の声を正しく聞くこと、伝えること難しく思います。
- ・自分の言葉だけで話さず、相手の立ち位置と同じ目線で話すことが大事だということ。
- ・相手のことを理解しようとする事。
- ・コミュニケーションの大切さを実感しました。

〈職名未記入〉

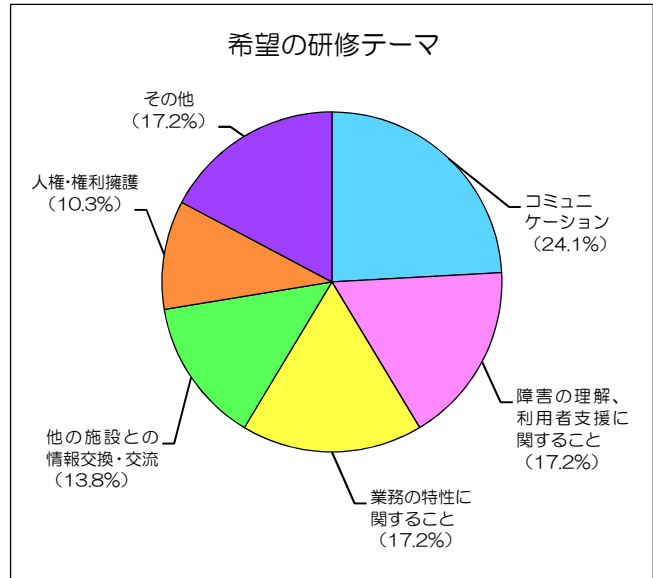
- ・いつも感覚で人とのコミュニケーションを図っていたのでパターンを考えようとするのが難しく分りにくくなる部分があった。今日教えてもらったことを自分の物にするにはすごい時間が必要だと思うが、日々意識的に取り組んでみようと思います。
- ・感覚を上手に使った表現の重要性を再確認できた。
- ・質問、要約技法、バックトラックなど。

◆希望の研修テーマ(自由記述)

問 4. 今後、受けてみたい研修のテーマや内容を教えてください。

希望の研修テーマ (29 件)

- ・コミュニケーション 7 件(約 24.1%)
 - ・障害の理解、利用者支援に関すること
5 件(約 17.2%)
 - ・業務の特性に関すること
5 件(約 17.2%)
 - ・他の施設との情報交換・交流
4 件(約 13.8%)
 - ・人権・権利擁護 3 件(約 10.3%)
 - ・その他 5 件(約 17.2%)
- ※小数第 2 位を四捨五入した。



項目	内容
<p>●コミュニケーション (7 件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アサーション今日の続き。(サ管) ・専門職、コミュニケーション。(世/生) ・苦手な人との付き合い方等。(世/生) ・「風通しのよい場をつくる」コミュニケーションスキルの続きを更に学びたい。 ・グループケアホームの経営体制を理解したい。(世/生) ・川合先生の講義をもう少し時間をかけて受けてみたい。(世/生) ・今回のようなコミュニケーションスキルを学ぶ研修。(不明) ・素人にできるカウンセリング。相手から話を引き出すスキル。(不明)
<p>●障害の理解、利用者支援に関すること (5 件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス評価の項目内容をどう常に精査していくか、問われていると思います。既存の項目をなぞるのでは、サービスは低下してしまうとも感じます。(管) ・記録のやり方について、学びたいと考えている。(サ管) ・精神のことが研修としてあれば参加したい。(世/生) ・個別支援の立て方。情報共有について今回必要と感じたので。(世/生) ・自閉症。(世/生)

<p>●業務の特性に関すること (5件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーやホームの在り方について。(世/生) ・世話人研修。(世/生) ・グループホームの運営に関する内容。(世/生) ・①相談支援 ②世話人・支援員の役割とは何か。(不明) ・世話人・非常勤ストレスが溜まらないようなテーマ。(不明)
<p>●他の施設との情報交換・交流 (4件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループホームは、どんなところで、どのようなことに困っているかなどを聞きたいです。(世/生) ・他ホーム・施設での業務内容や余暇などを含めた支援の内容を知りたい。(世/生) ・他のグループホーム・ケアホーム(知的)の問題点、どうやって解決しているのかなどの研修。(世/生) ・他事業者間との連携、協力体制のつくり方。(不明)
<p>●人権・権利擁護 (3件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止法。(管) ・人権について考える研修をワークを含めて欲しい。(サ管) ・人権について。(世/生)
<p>●その他 (5件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴トレーニング。(世/生) ・ケアホームに異動したばかりなので、今後出てくると思います。(世/生) ・全てが勉強だと感じているので…。(世/生) ・今後のビジョンについて。(世/生) ・倫理的に話す方法。(不明)

【注: 役職の略称】(管) = 管理職 (サ管) = サービス管理責任者 (世/生) = 世話人/生活支援員
(他) = その他 (不明) = 記入なし

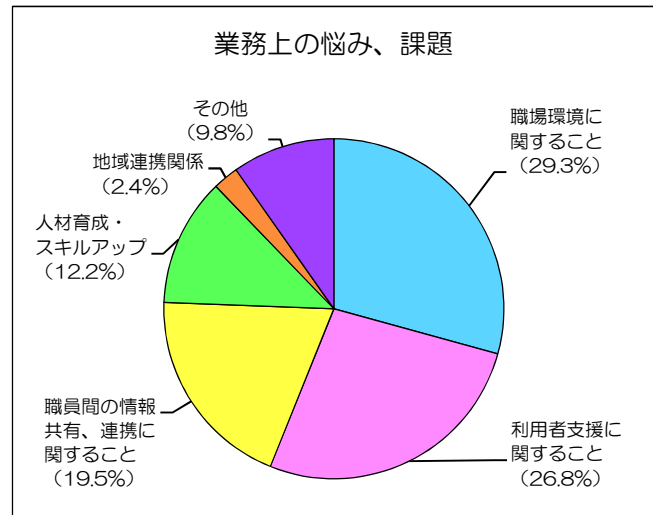
◆業務上の悩み、課題(自由記述)

問 5. あなたが仕事をするなかで困っていること、悩んでいること、課題に感じていることを教えてください。

業務上の悩み、課題 (41 件)

- ・職場環境に関すること 12 件(約 29.3%)
- ・利用者支援に関すること 11 件(約 26.8%)
- ・職員間の情報共有、連携に関すること 8 件(約 19.5%)
- ・人材育成・スキルアップ 5 件(約 12.2%)
- ・地域連携関係 1 件(約 2.4%)
- ・その他 4 件(約 9.8%)

※小数第 2 位を四捨五入した。



●職場環境に関すること(12 件)

小項目	内容
職場の人間関係について (8 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・職場内のコミュニケーションは大きな課題と感じています。(サ管) ・管理者と現場との板挟み。(世/生) ・他の支援員さんとのコミュニケーションが取りにくい一方的なお願いになってしまう。(世/生) ・コミュニケーション不足、勉強不足では。(世/生) ・自分の悩みや困難を共有し、わかり合える相手がなかなかいない。(世/生) ・職員同士のコミュニケーション。(世/生) ・職員に一体感がなく、仕事に困っています。(世/生) ・利用者とのコミュニケーション。職員同士、職場的コミュニケーションが希薄。(不明)
業務の多忙さ等について (3 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・世話人とサービス管理責任者等兼務をしている時に、利用者支援ができないジレンマを抱えています。(サ管) ・休日が減る事、人員不足。(世/生) ・世話人・支援員の役割が分からなくて悩んでいる。トータル的にやらなければいけないことが多過ぎて処理し切れない。(不明)
その他(1 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の感情を出すこと。(不明)

●利用者支援に関すること(11件)

小項目	内容
<p>具体的支援方法について (5件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の声かけで今日はできないと言われて、その後の支援ができない。(世/生) ・それぞれ違った障がいに応じてどのように接していいのかわからない。この接し方であっているのかと日々悩んでいます。(世/生) ・軽度の入居者に対する支援。世話人など非常勤のコーディネーター。(世/生) ・個人個人の対応の難しさを課題としています。(不明) ・性格と障害から来る性格なのか、どうしてそう思うのかの確認がうまくとれない時、利用者間で利害関係が生まれた時の判断。(不明)
<p>利用者(家族)との関わり方について(2件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題としては、年月が経過した中での利用者との付き合い方が慣れにより雑になってしまう事だと思います。常に「親しき仲にも礼儀あり」のスタンスで望みたいと考えています。(世/生) ・利用者さんとその家族の関係や考え方の違い。(世/生)
<p>利用者の意向の尊重について(2件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・恋愛や結婚、一人暮らしなどグループホームの中で起きることにとどまらない課題をいかに支援すべきか悩みます。入居者の人生を豊かに広げていきたいと願うのですが。(管) ・利用者の本当の思いを聴けているか、利用者が望む生活を実現する支援ができているか、利用者の立場を理解した支援ができているか。(世/生)
<p>その他(2件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんの中で生保の方が、働きたいと意欲があっても収入の限度がある事でやる気を無くしてしまう。そんな時に制度の矛盾を感じ、どう対処していいかわからない。働いたら働いた分、欲しいのは皆同じだと思う。(世/生) ・まだ自分で解決できないことが課題。(世/生)

●職員間の情報共有、連携に関すること(8件)

小項目	内容
<p>目標・支援方針の共有について(5件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の研修にもありましたが、なかなか職員間の連携が難しく職員によって支援の質の違いも出てくる。(サ管) ・支援員間のコミュニケーション意志の交流がスムーズにできなければより良い支援にはつながらないと思った。(世/生) ・連携、情報の共有、スタッフそれぞれのスタンスをまとめ切れない。(世/生) ・達成感の設定。(世/生) ・職員の共通目標の持ち方、研修会への参加。(不明)

情報共有について (2件)	・職員同士の情報共有の仕方。(世/生) ・支援の内容、また制度の改正などに伴い、いかに情報を得ていくかということ。(世/生)
職員間の共通認識について (1件)	・世話人、支援員の共通意識。(世/生)

項 目	内 容
●人材育成・スキルアップ (5件)	・世話人の仕事(利用者に対する)へのスキルアップ。(管) ・世話人に対する専門性の向上。(管) ・利用者様との関わりについてもっと事例などで勉強したいと思っています。(世/生) ・この研修を多くの事業所の方たちが学んで欲しい。次の日をむかえる事を伝える仕事の為。(世/生) ・障害の違いに対する理解を深める必要性を感じています。(不明)
●地域連携関係 (1件)	・地域移行が重視され、GHCH が急増したのは良いと感じているが、GHCH の在り方について疑問をもつ。GHCH は永住の場なのか？地域移行の通過点なのか？その考え方が違う利用者が共同生活することによって支援方法が違うのはもちろんだが、利用者間で“どうして私はしてもらえないの？”という障害者間での不満が出てくる。これからのGHCHの在り方を考える時期なのではないか…。(世/生)
●その他 (4件)	・常勤職員の給与が2名分は払えない。良い人材が来ない。(管) ・地域生活(生活ホーム)の総合防災対策(課題)。(管) ・眠さに負けない。(世/生) ・職員間のコミュニケーションもあったので、今日は勉強になりました。 (世/生)

【注:役職の略称】(管)=管理職 (サ管)=サービス管理責任者 (世/生)=世話人/生活支援員
(他)=その他 (不明)=記入なし

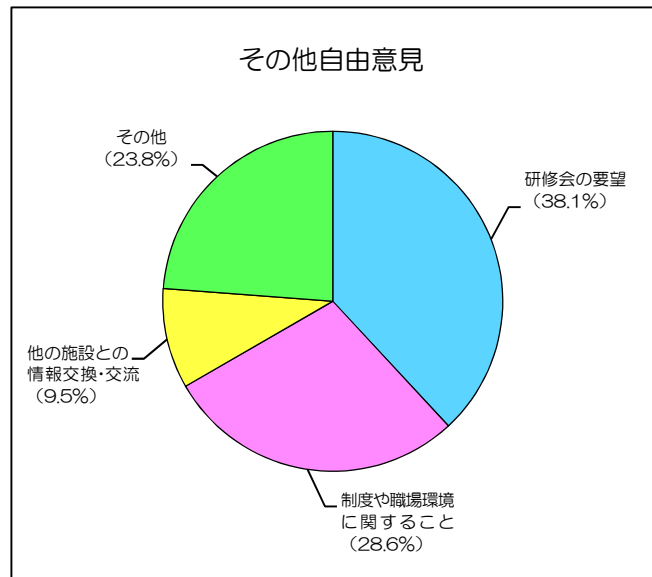
◆その他自由意見(自由記述)

問 6. 本日の研修会に関することや日頃の業務を通して感じていること、今後行政や支援機関に期待する支援など、ご自由にご記入ください。

その他自由意見 (21 件)

- ・研修会の要望 8 件(約 38.1%)
- ・制度や職場環境に関すること 6 件(約 28.6%)
- ・他の施設との情報交換・交流 2 件(約 9.5%)
- ・その他 5 件(約 23.8%)

※小数第 2 位を四捨五入した。



項目	内容
●研修会の要望 (8 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・川合先生、是非、うちの法人の研修にも来て頂きたいです。(サ管) ・県西での研修会を充実させてほしい。横浜まで行くのは遠いです。横浜から来ていただきありがとうございました。(サ管) ・1 人仕事、職場であると、なかなか出たいと思う研修に出られないなどあるので色々やってもらいたい。(世/生) ・アサーションの講座をぜひ広めて欲しい。会話は相手があって成り立つので相手がこの意識がなければ成り立たないのかなとも思うので…。(世/生) ・これからも自己啓発の場を作って下さい。(世/生) ・GHCH 入居者の高齢化による今後の支援の変化。それに対する支援方法を学びたい。(世/生) ・法や制度の改正に伴い、書面だけの説明でなく、研修・説明会などがあると良いと思います。(世/生) ・問題点の上司への伝え方等がレクチャーされるのかと思ってイメージしていました。(世/生)

<p>●制度や職場環境に関すること（6件）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・報酬の向上。建築基準の見直し。(管) ・1 ホームグループ完結ではなく、外に向かって行くということ。スタッフが楽しいと思える職場にしたいと思いました。(サ管) ・メンバーにとって、どのような支援が出来るのか、スタッフでまとまって取り組んで行きたいと思います。(世/生) ・TEL 連絡が必ず取れるようにしてもらいたい、不安になる。(世/生) ・相手を尊重することのむずかしさと大切さ。(世/生) ・ネットワークの整備。(世/生)
<p>●他の施設との情報交換・交流（2件）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームは、どうあるべきか。支援者はどうあるべきか。意見交換したり、議論したりする場があるとうれしいです。皆さん他事業者の実践をもっと知りたいです。(管) ・支援されている方のお話を聞きたいです。(世/生)
<p>●その他（5件）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常に振り返ることの大切さを改めて学びました。(サ管) ・自分を振り返る。自分の仕事を振り返る機会が必要だと思う。本日は良い機会を頂きありがとうございました。(世/生) ・とてもいい経験をさせて頂きました。自分を振り返ることができましたと思います。ありがとうございました。(世/生) ・楽しかった。(世/生) ・いろいろな人と話し合うことができ業務の振り返りもできて良かったです。(不明)

【注：役職の略称】(管)＝管理職 (サ管)＝サービス管理責任者 (世/生)＝世話人/生活支援員
(他)＝その他 (不明)＝記入なし

II-2 自己評価取り組み状況についてのアンケート結果

1. アンケートの目的

障害者グループホーム・ケアホームのサービスの質の向上に向けた今後の支援方を検討するため、平成23年度障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会の参加事業所を対象に自己評価の取り組み状況を把握するとともに、障害者グループホーム・ケアホームにおける業務改善の取り組み方法、職員間の連携において取り組んでいることについてアンケート調査を行った。

2. アンケート実施方法

実施時期	平成24年1月
調査対象	平成23年度障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会の参加事業所
配付方法	対象事業所にアンケート調査表を郵送
回収率	約26.8%（回収数19通／配付数71通）

3. アンケート結果

◆自己評価の取り組み状況について(単一回答)

問 1. 貴事業所での自己評価の取り組み状況についてお伺いします。①から⑥のうちあてはまるものに○をつけて取り組み状況等をご記入下さい。

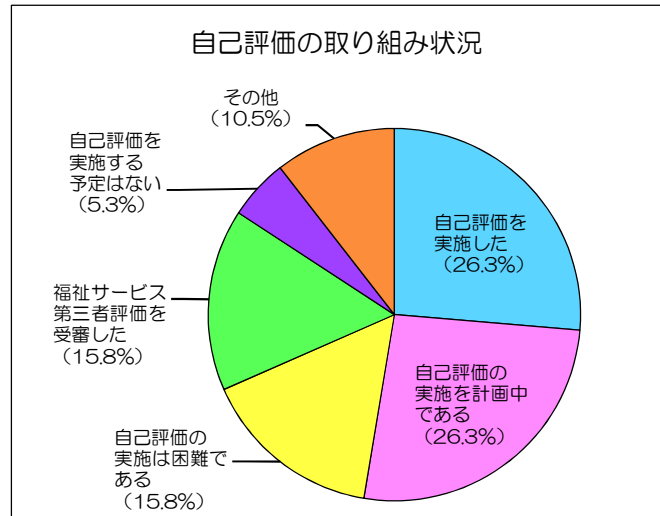
圏域	①自己評価を実施した	②自己評価の実施を計画中である	③自己評価の実施は困難である	④自己評価を実施する予定はない	⑤福祉サービス第三者評価を受審した	⑥その他	合計
横須賀・三浦	1		2		1	1	5
湘南西部			1			1	2
湘南東部	1	1		1			3
県西		1			1		2
県央	1	1					2
政令指定都市	2	2			1		5
合計	5 (26.3%)	5 (26.3%)	3 (15.8%)	1 (5.3%)	3 (15.8%)	2 (10.5%)	19 (100%)

(小数第2位を四捨五入)

自己評価の取り組み状況アンケート(19件)

- ① 自己評価を実施した(している)
5件(約26.3%)
- ② 自己評価の実施を計画中である
5件(約26.3%)
- ③ 自己評価の実施は困難である
3件(約15.8%)
- ④ 自己評価を実施する予定はない
1件(約5.3%)
- ⑤ 福祉サービス第三者評価を受審した
(している)中で自己評価を実施した
(している) 3件(約15.8%)
- ⑥ その他 2件(約10.5%)

※小数第2位を四捨五入した。



◆自己評価の取り組み状況について(自由記述)

〔①自己評価を実施した(している)〕

●取り組み方法・内容等について

- ・自己評価の項目の中から、より身近で常に気配りを必要とする項目を10項目抜粋して、3カ月ごとにチェックし提出してもらう様にした。
- ・職員が関係する部分を抜き出したチェックリスト表を作成。職員研修(全員参加)の場でサービス管理責任者が、説明を加えながら一項目ずつ読み上げ、個々に記入してもらった。その後、対応の振り返りや意見交換をした。
- ・自己評価のシートを使い、各スタッフがチェックを行い、改善点や工夫することなどグループワーク形式で議論している。年2回ほど実施している。
- ・各世話人に個人チェックを行ってもらい、サビ管と運営責任者で集計を実施。その後、各世話人と個人面談実施。
- ・毎月1回ホーム「支援会議」において、自己評価チェックシートの項目について少しずつではありますが、各支援職員が自分を振り返りながら発言し、すり合わせをしている。その際、何が正しい、正しくないではなく、何故そう考えるのかという背景を大事にしている。

●取り組みをした感想、結果について

- ・まだ開始したところなので、まずは職員への意識づけという段階。
- ・活発な意見が出て、理解につながる職員と難しい職員の違いが浮き彫りになった。
- ・自らの利用者に対する対応の気づきにつながった。
- ・マイナス面とプラス面をふまえて、ホームの課題を決め、改善策を伝え、取り組んでいる。

●自己評価についての意見

- ・今後も職員のレベルアップのために繰り返し取り組みたい。

〔②自己評価の実施を計画中である〕

●取り組み方法・内容等について

- ・評価シート、評価基準の検討。
- ・莫大なチェック項目なので、まず一部に焦点を当て、常勤職員から実施を検討している。

●取り組み時期について

- ・次年度、研修会で学んだ内容をもとに自己評価を実施する予定です。
- ・研修での内容について、世話人さんに理解を深める勉強会が必要。その後、実施をしていきたい。

●その他

- ・協議中。

〔③自己評価の実施は困難である〕

●理由

- ・一人職場で毎日が慌ただしく過ぎていく中で、記録等の記入時間に自分自身の仕事の振り返りを
する状況です。その他、職員会議等の時にアドバイスをできるようにしています。
- ・法人内に自己評価の実施基盤がないため。また組織としても小規模なため自己評価を取り組む
人材がないため。
- ・全職員を集められない。(時間が合わない。多人数の為。研修時間の給与が払えない。)
- ・担当職員が個別支援の専門性が経験不足。

〔④自己評価を実施する予定はない〕

●理由

- ・所長代理の判断のため。

〔⑤福祉サービス第三者評価を受審した(している)中で自己評価を実施した(している)〕

●取り組み方法・内容等について

- ・自己評価(第三者評価のもの)を月1度のスタッフ会議で、毎回4つ位を自己評価しながら職員、
世話人の意見交換及び、確認、意識付けを行っている。
- ・スタッフ全員に自己評価を実施。

●取り組みをした感想、結果について

- ・受審後、気づきや職員の意識改革と業務の確認ができた。
- ・職員一人ひとり、利用者への接し方や支援方法、感じ方が異なります。統一した支援が出来る
ことが望ましいですが、『ケアホーム』という、職員間のコンタクトや周知が難しい職場の中で、
これらの事項の統一を図ることの難しさを感じました。しかし、自己評価表に挙げられている項目は、
利用者の皆さんが充実して生活していく上で出来ていなくてはならないものであると思います。
自分の支援を振り返るとともに、他の職員との連携についてを考えるきっかけにもなると感じました。
- ・自己評価表をもとにスタッフ同士で具体的な話をして、普段、自分が行っていることを見直し
再確認ができた。

〔⑥その他〕

●理由

- ・事業所として自己評価をどう進めるか検討したい。
(①どのような項目、内容とするか。②実施の仕組みをどうするか。)
- ・現在、ケアホームの運営体制(職員配置含め)見直し中であり、第三者評価や自己評価について
十分な議論がまだ出来ない状況です。

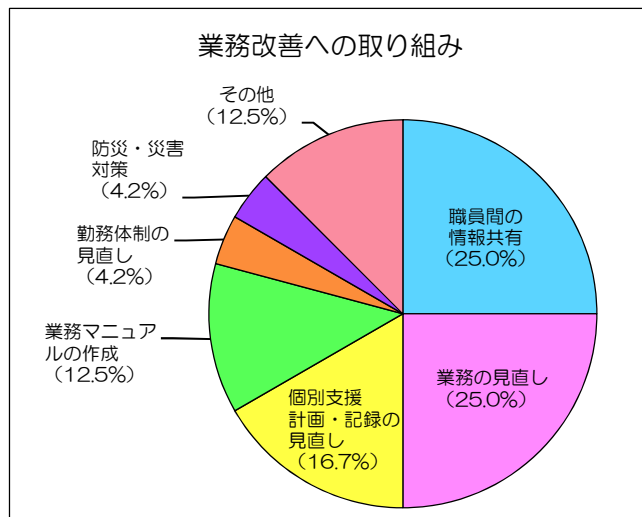
◆業務改善への取り組み(自由記述)

問2.現在、貴事業所で業務改善に取り組んでいることがあれば、その内容や取り組み方法などについて教えてください。(例:個別支援計画の様式の見直し、〇〇マニュアルの作成など)

業務改善への取り組みアンケート(24件)

- ・職員間の情報共有 6件(約25.0%)
- ・業務の見直し 6件(約25.0%)
- ・個別支援計画・記録の見直し
4件(約16.7%)
- ・業務マニュアルの作成 3件(約12.5%)
- ・勤務体制の見直し 1件(約4.2%)
- ・防災・災害対策 1件(約4.2%)
- ・その他 3件(約12.5%)

※小数第2位を四捨五入した。



取り組み事項	取り組みの内容、取り組みの状況
<p>●職員間の情報共有 (6件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日報(誌)の様式変更と情報の共有化…利用者の状況を細かく記入できるようにした。 ・年間テーマの設定…共通の課題に職員が一丸となって取り組むため。2011年度テーマは「きれいに暮らそう」個別支援計画にも反映させる。 ・月1度のスタッフ会議は、ホームの支援員、世話人(常勤、非常勤)で顔合わせができるが、個別の支援を話し合う時間がないため、今後は別にもう1度、各ホームに支援員が出向き支援会議を各ホーム毎に実施(第三者を受審してから改善しました) ・月1回、ホーム職員(常勤、非常勤)での支援会議の実施し、意見を聞いていく。 ・事業実施報告書(日誌)の特記事項や引き継ぎ内容を連絡帳に記入し、全体で共有化できるようにしている。 ・新しい職員が入った際に改めて、施設長よりホーム支援職員全員に対し、支援方針の確認を書面にて実施している。ホーム「新たな入居者支援に向けての職員間の確認事項」。
<p>●業務の見直し (6件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各様式の見直し。 ・会議進行の円滑化、求人マニュアル作成、事故対策について検討中。 ・入居者の預かり金確認作業を非常勤職員にも担ってもらい、ケアホームに関わる全職員で預かり金を守る体制を取っている。 ・食事時間の見直し…利用者にとって最適な時間帯とする。 ・同法人内での他ホームとの会議を実施することで、他ホームでの業務内容を確認し合い、当ホームでの業務を見直す。 ・各種書式の見直し、業務のスリム化と合理化。

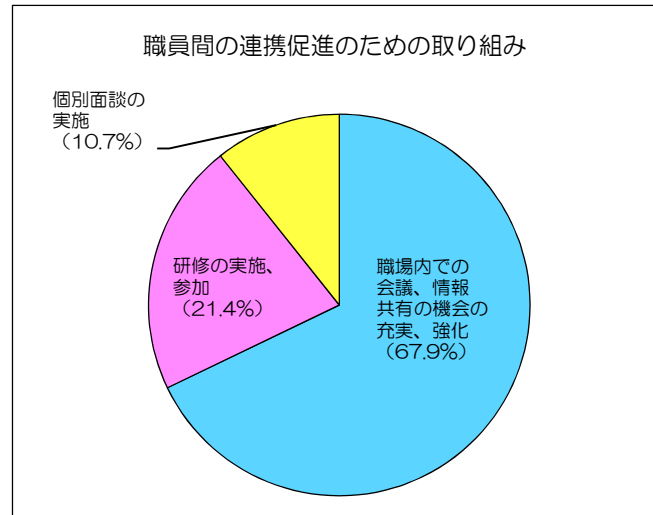
<p>●個別支援計画・記録の見直し (4件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の統一を図るために個別の支援マニュアルを作成した。個々の支援について直接関わる支援員さんに項目を出して頂いたことでマニュアルが効果的に利用されている。 ・ヒヤリハット報告書の書式を親しみやすく、書きやすい物に変更した。 ・個別支援計画の様式は、新しくした。支援内容については、常時見直している。重度の方が多いため、保護者との連携を密にしている。 ・個別支援計画の様式や取り組み視点についての見直し。日常的な支援内容や業務の進め方についての書き出しと見直し。
<p>●業務マニュアルの作成 (3件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理・貴重品預り等のマニュアル・様式の整備、食事作りをていねいにし、食卓での団らんを改めて重要視する。(どのようなメニューか？クリスマスや正月は？誕生日会は？etc.) ・業務のマニュアル化。 ・ホーム業務マニュアルの見直し、改善。
<p>●勤務体制の見直し (1件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務体制の見直し。
<p>●防災・災害対策 (1件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策についてグループホーム間で検討している。
<p>●その他 (3件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当ホーム、第三者委員の方にコンサルテーションという形で協力いただき、事例検討、ケース対応、支援など職場内研修を行っている。 ・非常勤職員に対しても、積極的に研修案内を提示。 ・協議中。

◆職員間の連携促進のための取り組み(自由記述)

問3.現在、貴事業所で職員間の連携をすすめるために特に力を入れて取り組んでいることや工夫されている点がありましたら教えてください。(例:職員面談の実施、研修回数を増やすなど)

職員間の連携促進のための取り組み アンケート(28件)

- ・職場内での会議、情報共有の機会の充実、強化 19件(約67.9%)
 - ・研修の実施、参加 6件(約21.4%)
 - ・個別面談の実施 3件(約10.7%)
- ※小数第2位を四捨五入した。



取り組み事項	取り組みの内容、取り組みの状況
<p>●職場内での会議、情報共有の機会の充実、強化 (19件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月2回のホーム会議、月1回の全体会議の実施。担当スタッフとサービス管理責任者の責任や役割を明確にし、日頃からの連絡を強化する。 ・ホームが4棟あるので、4カ月ごとに全ホームの職員が顔を合わせて合同の勉強会を実施している。 ・自分が配属されているホーム以外のホームでの実習を実施した。(閉鎖的な職場にならない様に) ・県央福社会全体で職員にメンター制度を取り入れている。 ・必ず各GHを回ること。 ・毎月1回の職員会議を開き、その時に各事業所の状況把握、支援方法について検討しあい、情報共有化連携に取り組んでいます。 ・月1回職員会議には、施設長、世話人だけでなく法人理事も加わっている。同日研修も実施している。 ・業務日誌以外に連絡ノートを配備、利用者の小さな変化も書きとめるようにしている。 ・人権スローガンを各事業所(ホーム)へ掲示。実施後のアンケートで意識付けを再評価。 ・法人独自で、人権マニュアル「竹の子守ろう宣言」を作成し、掲示。 ・管理者、サービス管理責任者、世話人がグループホームミーティングを開催し、グループホーム内の利用者さんの状況や話し合いの場を持っている。 ・連絡ノートの活用。また、確認後はサインをする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ホーム職員会議の開催により、意見交換をする。 ・丁寧な意思伝達。情報共有。具体的且つ明確な受け答え。 ・メンバーさんに対する根本的な思いを同じにして働くための工夫。 <ul style="list-style-type: none"> ①定員6名、職員3名(管理者、サービス管理責任者、世話人)で家族的に運営している。 ②随時、全員による職員会議を開き、問題・課題に対する対策を検討している。 ③利用者の希望・意向把握と運営への取り入れ。 ・些細なことでも連絡を密にし、スタッフ全員に正しく伝わる方法を考える。(ノート、掲示板) ・報告、連絡、相談の実施。 ・特に具体的な事ではないが、自己評価チェックシートの活用により、職員間での気づきは増えて来ているが、課題としては、せっかく気づいたことをいかに実行するか、実行できているかだと思う。 ・週1回の常勤スタッフとサービス管理責任者との業務会議の実施。定期的な常勤スタッフと居宅介護・移動支援スタッフとの連絡会議の実施。
<p>●研修の実施、参加 (6件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内でケアホーム・グループホームに携わる非常勤職員を対象とした研修を開催している。 ・研修会でのロールプレイングが大変好評だったので、次年度は回数を増やしたい。 ・職場内研修、OJTの定例化と多種多様な外部研修の情報提供、日程調整など、なるべく行うようにしている。 ・研修参加は、給与支払いの生じない職員等を主に出来るだけ参加している。法人理事(世話人補佐をしている)、管理者が参加。 ・積極的に研修への参加。 ・平成23年9月29日の障害者グループホーム・ケアホームサービス評価研修会(湘南東部)プログラムには、支援職員が全員出席・参加した。
<p>●個別面談の実施 (3件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月からの新体制に向け、職員の個人面談を実施する予定(2~3月) ・世話人に施設長面接を実施。 ・月1回、職員会議の後などで必要があれば面談をします。3ヶ月に1回位、個別面談を行います。研修は職員の希望により随時行っています。

II-3 「サービス評価研修会アンケート」及び「自己評価の取り組み状況についてのアンケート」 結果の概要及び今後の必要な取り組み

本会が障害者グループホーム・ケアホームを対象に県内 6 か所で開催した「サービス評価研修会の参加者アンケート（以下「研修会アンケート」という。）及びサービス評価研修会参加事業所を対象に実施した「自己評価の取り組み状況アンケート」（以下「自己評価アンケート」という。）の結果からは、自己評価の意義や目的が理解され、具体的な取り組みが進められている状況が窺えたと同時に、障害者グループホーム・ケアホームの職員が様々な課題やニーズを抱えていることも明らかになった。

そこで「研修会アンケート」ならびに「自己評価アンケート」の結果から見えてきた、障害者グループホーム・ケアホームにおけるサービスの質の向上に向けた取り組みの状況や課題解決への支援等について以下にまとめるとともに、今後の障害者グループホーム・ケアホームのサービスの質の向上に向けた支援のあり方を考察する。

1. 障害者グループホーム・ケアホームにおけるサービスの質の向上に向けた支援について

(1) 自己評価への取り組み状況と自己評価支援について

〈アンケート結果の概要〉

- 研修会アンケートでは、研修会を通して、自己評価について「よく理解できた」「まあ理解できた」とする回答の合計が全体の 90%以上となった(P11)。また、職種別の回答をみても、管理者(88.9%)、サービス管理責任者(72.8%)、世話人／生活支援員(94%)において「理解できた」とする回答が 70%を超え、「自己評価がサービスの質の向上に効果的である」という一定の理解が得られたことが確認できた。また、自己評価の取り組みへの意向を聞いた設問でも、回答者の 87.9%が「自己評価をやってみようと思った」と回答し、その理由としては主に「利用者支援の振り返りができる」や「業務改善につながる」という意見が寄せられた。
- 自己評価アンケートでは、対象事業所 71 か所に対し、回答した事業所数は 19 か所(回収率 26.8%)であったが、回答事業所のうち「自己評価を実施した(している)」事業所は 5 か所(26.3%)、「自己評価の実施を計画中」の事業所は 5 か所(26.3%)、「福祉サービス第三者評価を受審した(している)中で自己評価を実施した(している)」は 3 か所(15.8%)と自己評価の実施に積極的な事業所が 13 か所(68.4%)にのぼった(P27-P28)。研修会を通じて自己評価への理解を深めたことが具体的な取り組みの動機づけとなっている状況が確認できた。一方、「自己評価の実施は困難である」「自己評価を実施する予定はない」と回答した事業所 4 か所(21.1%)からは、自己評価の実施は現場での取り組み意欲だけでは困難で、「法人全体の理解が必要」とする意見が目立った(P29)。

〈自己評価への取り組み支援に向けて〉

- 今年度の自己評価アンケートからは、3年間にわたる取り組みで障害者グループホーム・ケアホームにおける自己評価の取り組みが進んでいることが窺えた。一方、自己評価を実施していないと回答を寄せたホームから「法人内に自己評価の実施基盤がないため」「全職員を集められない」との回答もあり、今後の自己評価の取り組み支援では、障害者グループホーム・ケアホームへの直接的な支援はもとより、法人関係者等に向けた自己評価への理解促進のための働きかけも同時に進めていくことが必要である。

(2) 業務上の課題等の解決への支援について

〈アンケート結果の概要〉

- 研修会アンケートで寄せられた「業務上の悩み、課題」についての回答41件（自由記述）を分類すると「職場環境に関すること」が12件（29.3%）で最も多く、「自分の悩みや困難を共有し、わかり合える相手がなかなかいない」「職員に一体感がなく、仕事に困っています。」「世話人・支援員の役割が分からなくて悩んでいる。トータル的にやらなければいけないことが多過ぎて処理し切れない。」といった職場の人間関係や業務の多忙さについての意見が複数挙げられた（P22）。
- 「利用者支援に関すること」への意見も11件（26.8%）挙げられた。「それぞれ違った障がいにどのように接していいのか。この接し方であっているのかと日々悩んでいます。」「個人個人の対応の難しさを課題としています。」や「利用者さんとその家族の関係や考え方の違い。」といった「具体的な支援方法」についての課題が挙げられた（P23）。こういった課題認識が、設問4「希望の研修テーマ」で「障害の理解、利用者支援に関すること」5件（17.2%）、「他の施設との情報交換・交流」4件（13.8%）の意見につながっていることが窺える（P20-P21）。
また、「自己評価アンケート」は、「業務改善への取り組み」を訊ねる設問に「個別支援計画・記録の見直し」4件（16.7%）の回答が寄せられており、「支援内容については、常時見直している。重度の方が多いため、保護者との連携を密にしている。」「個別支援計画の様式や取り組み視点についての見直し。日常的な支援内容や業務の進め方についての書き出しと見直し。」などの取り組みをしているとの意見が寄せられた。現場の職員が日常業務の中で、利用者の支援に工夫や努力を行っている姿が窺える（P30-31）。
- 「職員間の情報共有、連携に関すること」についても8件（19.5%）、「なかなか職員間の連携が難しく職員によって支援の質の違いも出てくる。」や「職員同士の情報共有の仕方」などの意見が挙げられており（P23-P24）、この結果、設問4「希望の研修テーマ」でも「コミュニケーション」7件（24.1%）の意見が提出された（P20）。「自己評価アンケート」でも「業務改善への取り組み」を訊ねる設問では「職員間の情報共有」6件（25.0%）の回答が寄せられており（P30）、同アンケートの「職員間の連携促進のための取り組み」には、「職員会議の充実」「研修会の実施・参加」「個別面談の実施」などに力を入れて取り組んでいるとの意見が寄せられた（P32-P33）。利用者支援に必要な情報共有や連携の促進、その基盤となる職員間のコミュニケーションの活性化への関心は高いことが窺えた。

〈業務上の課題等の解決への支援にむけて〉

- 障害者グループホーム・ケアホームの職場環境については、職員一人体制での勤務が中心であり、職員には物理的・精神的に大きな負担がかかっていることは各方面から指摘されているところである。職場環境の見直しは利用者支援の充実にも関わる問題であり、関係機関・団体等の協働により、定期的に改善に向けた実態把握の取り組みが必要である。
- 利用者への支援に関する悩み、課題については、一人職場の障害者グループホーム・ケアホームでは、職員が支援場面で悩みや課題につきあつた際に管理者等から即時に助言を受けたり、他の職員に相談することが難しい職場環境である。このため「職場内会議や研修の充実」「個別支援計画書の見直し」「他の施設との情報交換・交流」が必要である。会議や研修で意見を出し合ったり、他の障害者グループホーム・ケアホームの同じ立場・職種の職員との交流や情報交換を通して参考となる情報を得たり、支援の視点を学んだりするなど障害者グループホーム・ケアホームが自ら、身近な地域で日常的に他のホームとつながり、協働できる関係を築くことができるよう、支援機関・団体等は研修や情報交換の場の設定などを継続的に実施していくことが重要だと考える。
- 職員間の情報共有、連携に関する課題の解決に向けては、研修会参加者アンケート結果からも、サービス評価研修会で実施した「コミュニケーションスキル演習」のような企画が職員の悩みや課題の解決に有効であることが窺える。障害者グループホーム・ケアホームは年齢や経験や立場など、多様な職員が利用者支援にあたっており、利用者の生活の継続性、安定性を支えるためには、サービス提供にあたって職員間の情報共有や連携はなくてはならないものである。共有や連携の基本となるのは職員間の信頼関係であり、その構築への助けとなる基本的なコミュニケーションスキルを高めるための研修機会は今後も継続的に提供していくことが必要だと考える。

III 各障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンターとの会議実施結果 － ネットワーク形成支援にむけて －

1. 実施結果の概要

平成 23 年度の「サービス評価研修会」の実施にあたっては、障害者グループホーム・ケアホームの交流促進を図るとともに、各圏域内の障害者グループホーム・ケアホームの課題解決につながる実践的な研修内容とするため、各障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンターの協力を得て協働企画プログラムを設定することとし、各地域生活ナビゲーションセンター（5 圏域）と述べ 8 回の協議を行った。

2. 各障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンターとの協議結果

(1) 神奈川県横須賀・三浦障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター

（運営主体：社会福祉法人 湘南の風 支援センター風）

【第 1 回】

日 時	平成 23 年 5 月 11 日（水） 10:00～11:00
場 所	社会福祉法人 湘南の風 支援センター風
出席者	社会福祉法人 湘南の風 支援センター風 2 名 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 2 名
主な議題	○圏域内の障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会開催状況について ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会設定における配慮事項について ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会の研修内容について
主な協議内容・結果	○各種支援機関・団体による圏域内の障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会の開催予定との調整。 ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会企画にむけた要配慮事項の確認（開催日・時間帯・会場設定・参加対象者等）。 ○圏域内の状況や参加者ニーズに合わせた研修テーマの設定ともち方についての調整。

【第 2 回】

日 時	平成 23 年 7 月 5 日（火） 13:30～14:20
場 所	社会福祉法人 湘南の風 支援センター風
出席者	社会福祉法人 湘南の風 支援センター風 2 名 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 2 名
主な議題	○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会の研修内容について ○プログラム進行における配慮事項について ○講師等について

主な協議 内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域内の状況や参加者ニーズに合わせた研修会の設定ともち方についての調整、確認。(開催日、会場、研修会の内容等)。 ○グループ討議進行上の要配慮事項についての調整、確認(進行方法、グループ設定、グループ討議時の参加者への配慮等)。 ○ファシリテーターの依頼及び承諾、確認。
---------------	--

【第3回】

日 時	平成 23 年 7 月 22 日(金) 14:00～14:25
場 所	社会福祉法人 湘南の風 支援センター風
出席者	社会福祉法人 湘南の風 支援センター風 2名 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 2名
主な議題	○プログラム進行における配慮事項について
主な協議 内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域内の状況や参加者ニーズに合わせた研修会の設定ともち方についての調整、確認。 ○グループ討議進行上の要配慮事項についての調整、確認(進行方法、グループ設定、グループ討議時の参加者への配慮等)。 ○ファシリテーターの依頼及び承諾、確認。

(2) 神奈川県湘南西部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター

(運営主体：社会福祉法人 常成福祉会 丹沢自律生活センター 総合相談室)

【第1回】

日 時	平成 23 年 5 月 19 日(木) 13:30～14:30
場 所	社会福祉法人 常成福祉会 丹沢自律生活センター
出席者	社会福祉法人 常成福祉会 丹沢自律生活センター 2名 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 2名
主な議題	<ul style="list-style-type: none"> ○圏域内の障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会開催状況について ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会設定における配慮事項について ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会の研修内容について
主な協議 内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> ○各種支援機関・団体による圏域内の障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会の開催予定との調整。 ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会企画にむけた要配慮事項の確認(開催日・時間帯・会場設定・参加対象者等)。 ○圏域内の状況や参加者ニーズに合わせた研修テーマの設定ともち方についての調整。

(3) 神奈川県湘南東部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター

(運営主体：社会福祉法人 翔の会 生活相談室すまいる)

【第1回】

日時	平成23年5月26日(木) 14:30~15:15
場所	社会福祉法人 翔の会 生活相談室すまいる
出席者	社会福祉法人 翔の会 生活相談室すまいる 1名 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 2名
主な議題	○圏域内の障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会開催状況について ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会設定における配慮事項について ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会の研修内容について
主な協議内容・結果	○各種支援機関・団体による圏域内の障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会の開催予定との調整。 ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会企画にむけた要配慮事項の確認(開催日・時間帯・会場設定・参加対象者等)。 ○圏域内の状況や参加者ニーズに合わせた研修テーマの設定ともち方についての調整。

(4) 神奈川県西障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター

(運営主体：社会福祉法人 永耕会 障害者総合支援センターういず)

【第1回】

日時	平成23年5月23日(月) 10:00~10:45
場所	社会福祉法人 永耕会 障害者総合支援センターういず
出席者	社会福祉法人 永耕会 障害者総合支援センターういず 1名 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 2名
主な議題	○圏域内の障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会開催状況について ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会設定における配慮事項について ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会の研修内容について
主な協議内容・結果	○各種支援機関・団体による圏域内の障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会の開催予定との調整。 ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会企画にむけた要配慮事項の確認(開催日・時間帯・会場設定・参加対象者等)。 ○圏域内の状況や参加者ニーズに合わせた研修テーマの設定ともち方についての調整。

【第2回】

日 時	平成 23 年 7 月 7 日 (木) 10:00～10:40
場 所	社会福祉法人 永耕会 障害者総合支援センターういず
出席者	社会福祉法人 永耕会 障害者総合支援センターういず 2名 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 2名
主な議題	○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会の研修内容について
主な協議 内容・結果	○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会企画にむけた要配慮事項の 確認(開催日・時間帯・会場設定・参加対象者等)。 ○圏域内の状況や参加者ニーズに合わせた研修テーマの設定ともち方についての 調整。

(5) 神奈川県県央障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター

(運営主体：社会福祉法人 県央福祉会 サポートセンター花音)

【第1回】

日 時	平成 23 年 5 月 26 日 (木) 10:00～11:00
場 所	社会福祉法人 県央福祉会 サポートセンター花音
出席者	社会福祉法人 県央福祉会 サポートセンター花音 2名 社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 2名
主な議題	○圏域内の障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会開催状況について ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会設定における配慮事項について ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会の研修内容について
主な協議 内容・結果	○各種支援機関・団体による圏域内の障害者グループホーム・ケアホーム向け 研修会の開催予定との調整。 ○障害者グループホーム・ケアホーム向け研修会企画にむけた要配慮事項の 確認(開催日・時間帯・会場設定・参加対象者等)。 ○圏域内の状況や参加者ニーズに合わせた研修テーマの設定ともち方についての 調整。

3. 今後の障害者グループホーム・ケアホームのネットワーク形成への支援について

- 今年度の「サービス評価研修会」も昨年同様に障害者グループホーム・ケアホームの参加のしやすさや身近な地域での障害者グループホーム・ケアホーム相互の関係づくりへの支援の一端となるよう、障害保健福祉圏域単位で開催することとした。

また実施にあたっては、障害者グループホーム・ケアホームの現場が抱えている課題やニーズに即した研修内容となるよう、研修プログラムの一部に、各障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンターの協力を得て、協働企画によるプログラム（コミュニケーション演習、グループ討議等）を設定した。

- 障害者グループホーム・ケアホームは小規模運営であり、また職員数も限られるため、障害者グループホーム・ケアホームが自ら身近な地域で、日常的に情報交換や情報共有ができる“つながり”を築いていくことが求められる。

今後、各地域での障害者グループホーム・ケアホーム自身のネットワーク化への取り組みが伸展していくよう、支援機関・団体等は、研修やその他の事業を通してネットワーク化のきっかけづくりやネットワーク強化への取り組みを支援することが必要と考える。

- 本会では、引き続き研修事業の実施を通じて、障害者グループホーム・ケアホームのサービスの質の向上を支援するとともに、研修事業及び情報提供等を通じて障害者グループホーム・ケアホームのニーズや課題、意見等を他の県域・圏域の支援機関・団体等と共有し、連携を図りながら、障害者グループホーム・ケアホームのネットワーク形成への取り組みへの支援を行う。

平成 23 年度 障害者グループホーム等サービス向上推進事業報告書
(神奈川県委託事業:ふるさと雇用再生特別交付金委託等事業)

平成 24 年 3 月

神奈川県 保健福祉局 地域保健福祉部 地域保健福祉課
〒231-8588 横浜市中区日本大通 1

TEL: 045-210-4750 FAX: 045-210-8857

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
福祉サービス推進部 福祉サービス第三者評価担当
〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡 4-2 県社会福祉会館内

TEL: 045-290-7432 FAX: 045-313-0737

E-mail: daisansya@knsyk.jp